

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	24	学校名	伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校	記載者	所 宗子
------	----	-----	----------------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
安全・安心 ①	生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	経営計画に基づき、生徒の人権が守られ生徒の良さが生かされている	A	A	他学年の生徒同士とも交流をもちながら生徒のよいところを伸ばすよう指導してくれている。
		不祥事根絶に向けて自身の行動を振り返ることができた。 生徒はお互いを認め合う「自己指導能力」が高まった。	A	A	適切
安全・安心 ②	命のつながりを実感する食育や健康な体づくりの推進	家庭と連携し生徒の健康や健康な体づくりに取り組んだ。	A	A	保健の話やお便りが生徒たちに分かりやすい。 抜き打ち避難訓練ではしっかりと避難する姿が見えた。
		食と各教科等の関連を意識した指導ができた。	A	A	適切
安全・安心 ③	生徒の命を守る安全教育の充実	緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして生徒の安全を守る行動を身につけた。 生徒は防災防犯の備えが身についた	A	A	能登の被災状況等を見て、家の倒壊等の災害を理解し避難の大切さについて考えていた。 防災学習会では、各学年よく考えて自分の意見を発表する姿が見られた。
専門性 ①	体的・協働的・深い学びによって資質・能力を育成する授業実践	生徒の実態や思考の流れに沿った授業づくりを行った	B	B	うまくタブレットやPCを取り入れた授業をしていた。
		教科別シートの記録により障害特性に応じた目標設定や支援ができた。	A	A	的確な目標設定であり、家庭でも参考になった。
専門性 ②	特別支援教育の専門性の向上	障害に応じた支援についての考え方を深め実践に生かすことができた。	A	A	特性にあった職場実習先を紹介してくれ、本人の将来を考える良いきっかけになった。

様式第5号

		ICT活用により、主体的に授業に取り組んだ。また、授業づくりや業務効率化に効果を感じた	B	B	アプリを用いてPOPの作成を行ったり、ハッシュタグの引用もあつたりと生徒の興味を引くよう工夫され、授業の楽しさを感じた。
連携①	キャリア教育の視点で生徒の願いや夢を大切に した進路指導の充実	定期的な面談を実施し保護者とともに目標の共有と実現に向けて指導できた。	A	A	面談が定期的であり、学校の様子がよく分かかかる。次に何を考えていくべきかの道標にもなり助かっている。
		生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができた。	B	B	気になる事業所などの情報をタイムリーにくれ助かっている。
連携②	保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	適切な交流を計画し地域に貢献できた。	A	A	地域の清掃活動や、稲刈りなどの交流は生徒達も楽しそうだし地域の役にたっていると感じる。 桜田区での作業をしていただきありがたい。
		生徒は地域や松崎高校との交流会を活用した学習活動をとおして、意欲的に学んだ。	A	A	体育祭など交流を行っているが、普段から挨拶をしてくれる等、良い環境に思う。 桜田区の田植え、稲刈りでは大変な作業をしっかりとっていた。
チーム学校①	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	センター的機能による成果の整理及び検証（毎学期）	A	A	適切
		学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）	A	A	適切
チーム学校②	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	キャリアステージと自己目標シートに基づき、自身の役割を理解して経営に携わった。	A	A	頼りがいがあった。
		計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた。	B	B	適切